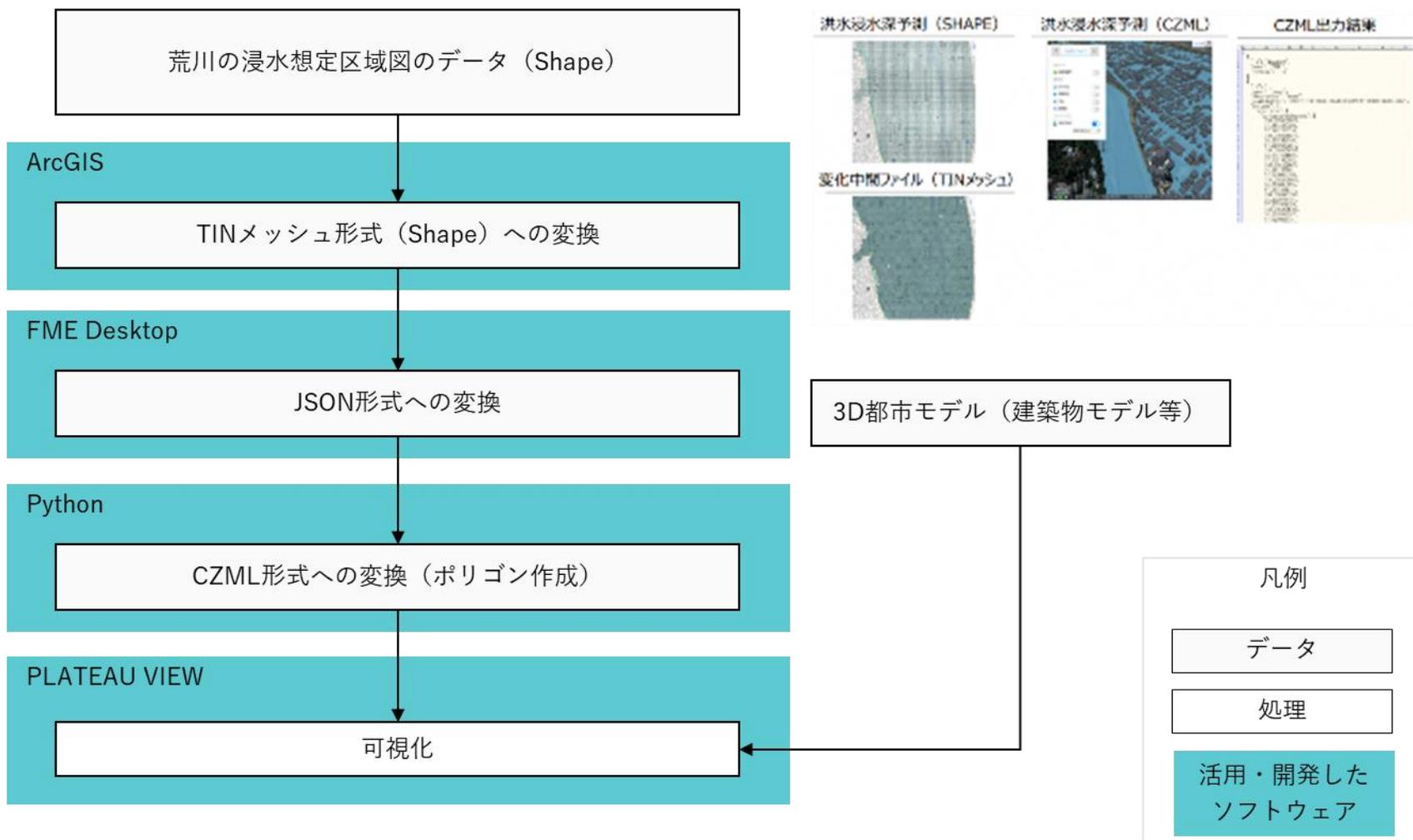


取組内容

- 時系列の三次元浸水データを整備し、3D都市モデル（建築物モデル等）と重畳・可視化することで、災害リスクの周知・認知の拡大を図り、マイタイムラインの作成を促進する。

システム構成図

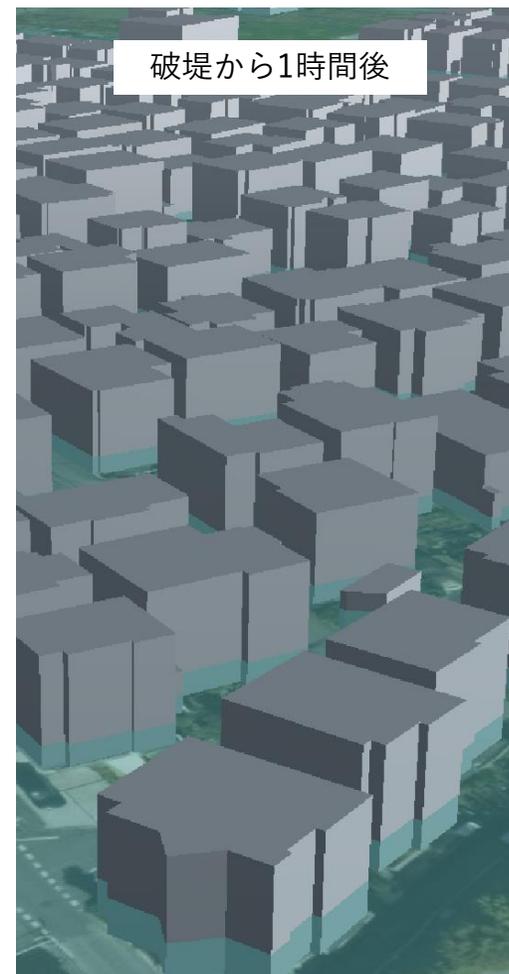
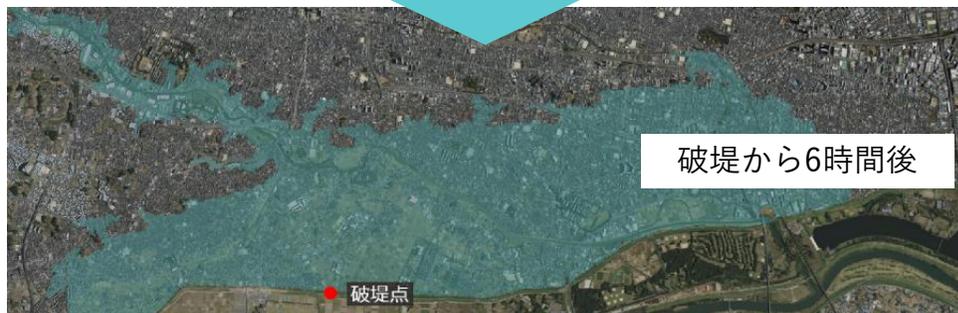
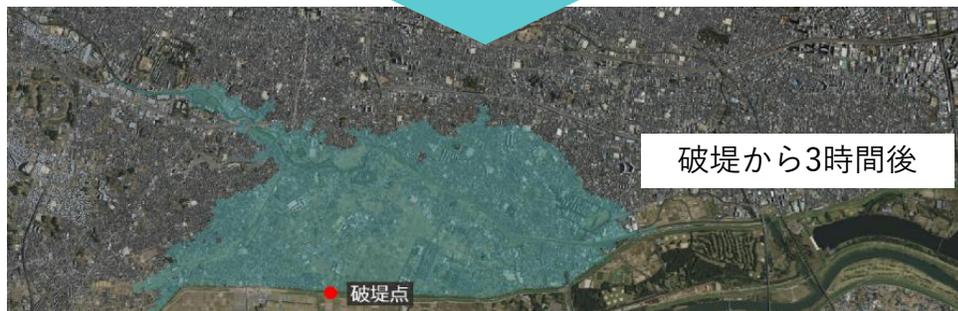
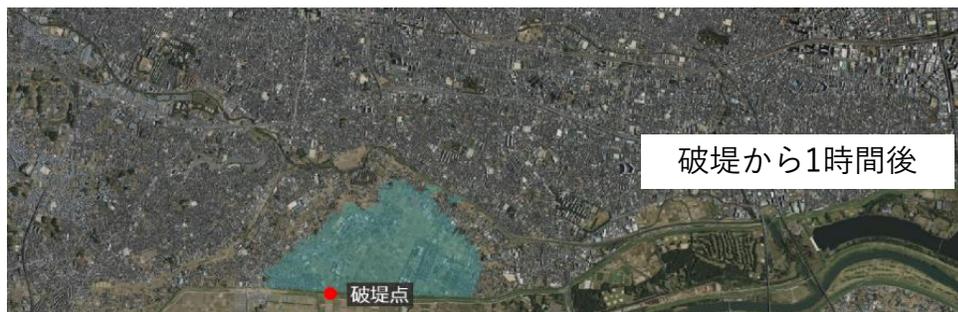


FY2024 3D都市モデルユースケース | 時系列浸水データの三次元可視化 (2/3)

開発方法

活用データ(3D都市モデル)	建築物LOD1,LOD2 / 地形LOD1
活用データ(上記以外)	洪水浸水想定区域図(緯度経度、高さ、浸水深)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none">● 浸水想定区域図のデータを収集する。荒川の浸水想定区域図のデータのうち破堤点を10箇所選定し、PLATEAU VIEW上で時系列変化の可視化が可能なフォーマット(CZML等)に変換する。● 作成したデータを「PLATEAU VIEW」のCMSに登録し、Editorで調整のうえユースケースデータとして可視化・一般公開する。3D都市モデル(建築物モデル)と重畳することで、時系列での水害リスクの変化をわかりやすく可視化する。
政策・事業での活用	今後、水害リスクの適切な把握による市民の防災意識の向上や、マイタイムラインの作成促進を図る。

ユースケース開発成果イメージ



破定点ごとの浸水想定区域データにより、浸水想定範囲の時系列変化をわかりやすく可視化